



森の音や風を感じる子ども



「見つけた！森の中のパン屋さん！」



「あつ、からす！迎えに来てくれたんだ」



「これ、エノコロ草！」



保育者が段ボールで作成した煙突つきのパン焼き釜

CASE 9

4・5歳児

(幼児の実態)

紙粘土遊びから生まれた子どもたちのパン作り。保育者は、遊びを広げようと絵本「からすのパン屋さん」の読み聞かせをします。お話を聞いた子どもたちは、「パンに何か飾りたい」とイメージを膨らませ、近くの神社までドングリや落ち葉を拾いに出かけます。絵本を真似したパン、ドングリや落ち葉で飾られたオリジナルのパンが次々と出来上がります。

からすのパン屋さんに
あいらじいじいー！

協力園
白杵市
下南保育所

ある朝、子どもたちが登園すると、からすのお父さんからパン焼き釜が届いていました。パンを焼く薪も煙突もついていて、「パンが焼ける」と喜び子どもたち。「落とさないようにそうつと」と、紙粘土のパンをそつと運び、腰をかがめ大事そうに釜の中に入れていきます。「焦げないように見ておかないでね。」できたてのパン、いいにおい。「パンの香りを想像して表現する子どもいます。紙粘土のパンに紅葉した落ち葉を飾ったモミジパンを見て「わあー、本物のパンみたいだ！」と出来栄に満足しています。

そんな中、からすのお父さんから「いずみもりへあそびにきませんか。いつのおはなをみつけ、ななつのはしをわたつたらいずみもり、からすのばんやさんがありますよ。」とお誘いの手紙が届きました。お話からイメージを広げ、遊びを発展させたいと、保育者が作成したものです。いずみもりには、白杵市の紅葉の名所、白馬溪を設定してあります。

「行きたい！」。いずみもりのからすのパンやさんに会いに行くことが決定です。森までの地図や、草花探しの写真カードも入っており、森までの道々、周辺の川や森、秋の自然にも触れさせたい保育者の願いが込められています。

四・五歳児でグループになって出発。途中、お手紙にあったコスモスやエノコロ草などを探さなければ森には辿り着けません。少し赤味を帯びたエノコロ草に「色は違うけど本物」と、特徴のある色や形をよく見たり触ったりして確かめます。五つ目のカイドの南天の実のそばまで来ると「見つけた！これで五つ目、最後だね。」うん、五つ目やけん、もうすぐからすのパンやさんやなあ。」と会話が弾みます。「一人とも手紙の内容をよく覚えていて言葉で確かめ合っていることが分ります。

白馬溪の森に近づく頃、頭上からからすが姿を現します。すると、Y児「ぼくたちを迎えに来てくれた！ありがとー！」I児「やっ！たあ！案内してくれるかもね？」と呼び掛けたり、手を振ったりします。Y児は、偶然に現れたからすと絵本のからすを重ね、自分たちも登場人物の一人になったかのように心情を言葉にします。これまでの体験を共に楽しんできたI児は、Y児の「迎えに来てくれた」の言葉に共感し、「やっ！たあ！」と返し、言葉のやり取りを楽しんでいます。

また、A児は絵本に親しむ中、パン屋さんの配達もイメージしたのでしよう。「飛び回っているのは、配達中なの？」と、からすにたずねています。どの子ども、お話の一幕に自分たちをおいて言葉のやり取りを楽しみむ姿が見られます。

七つの橋を渡り、いずみもりへ到着。頂上まで登ると、お社前に「からすのパン屋さん」と看板、お手紙とパンも置いてあります。お手紙は、保育者が読みます。「よくたどりついたね。いまはいたつちゆうだから みんなのためにつくったばんをたべてね！しもみなみほいくしよの みんなをいつもみまもってるよ。からすのおとうさんより。」

森の中のパン屋さんを見つけ小躍りして喜びを表現する子どもも。「大きい木。葉っぱも鳴ってる。風もある。」とB児。「いずみもりには、おおきな木がひやっぽん」と絵本と森の木を比較しながら森の音や風を感じています。子どもたちにとって、いずみもりに来たことは、お話世界のクライマックスを体験する大きな出来事です。物語に浸り、空想世界に身を置いて楽しむ子どもたちならではの姿があります。

下山しながら、子どもたちは「わたしもパン屋さんしたいな。」「どんなお店にする？」「パン屋さんの帽子も作りたいね。」と次の遊びを友達と語り合っていました。願いや思いを言葉で伝え合いながら、パン屋さんの遊びは、まだまだ続いていきそうです。

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿「10の姿」

健康な心と体

豊かな感性と表現

言葉による伝え合い

協同性

先生や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。

事例から見られる10の育ち 言葉による伝え合い

いずみもりへ出かける途中、本物のからすと遭遇する。「からすのパン屋さん」のお話に自分たちを置き、登場人物になりきってからすに呼びかけたり、その友達に付け足したりして言葉を繋ぎ合い、絵本の世界に浸っている。

また、草花見つけの最後の実が見つかる。「これで五つ目、最後だね。」と伝える友達に、「うん、もうすぐ森だね。」と共感し、「二人で言葉のやりとりを楽しむ姿が見られる。

豊かな言葉や表現は、保育者や友達と心が通い合う中で育まれる。

事例から見られる10の育ち 豊かな感性と表現

パン焼き釜の登場で、パン屋さんをイメージすることから腰を低くして釜に入れる身体表現を見せる。パンが焼ける香りも想像し「うーん、いいにおい」とパン屋さん世界に浸っている。

「いずみもり」目的地の白馬溪は、普段踏み入れることのない初めての場所。子どもたちは、からすのパンやさんが見つかったことを喜び、空想世界に身をおき、お話の世界に浸る。

いずみもり感性をもとに思いを巡らし、感じ取ったことを言葉にした表現で見せたりしている。

言葉による伝え合い・豊かな感性と表現 環境構成のポイント

- 絵本の世界と子どもの願いをつなぎ、遊びを発展させる指導計画と場の設定。
絵本の読み聞かせ、いずみもりの設定からすが頻繁に出没する散策コース選択
- イメージを膨らませ、願いが実現できる環境の準備。
パン焼き釜の設置。からすのお父さんからの手紙
- 相手の話を興味をもって聞こうとする友だちや保育者の存在、話をきいて理解したり共感したりする友達の存在。